

青森自治研 会報

第99号 2019.5

青森県地域
自治研の
現状と課題

～第4回～

神田 健策



2019年青森県知事選挙と市民連合あおもり

2019年6月2日は、青森県知事選の投開票日である。現三村知事は昨年11月末、5期目の挑戦を発表した。それから半年弱、対立候補の出馬が遅れ、マスコミでは一部に「無投票か？」の予測も登場していた。野党を軸とする候補擁立の動きも伝えられたが4月初旬までに具体的な名前はあがらなかった。

このような中で市民連合あおもりが佐原若子さんの知事候補推薦を発表し、4月20日本人が立候補表明の記者会見を行った。今回の青森県知事選は、4年前の三村申吾現知事に大竹進氏が挑戦した時と同じように、無党派市民が県政転換を求めて立候補するという構図である。しかし、今回は「市民連合あおもり」推薦の候補が立候補し、各野党が支援するという対立構図となった。

「市民連合」とは、4年前の2015年の安保法制（＝戦争法）反対運動の高まりの中で同年末に①安全保障関連法の廃止、②立憲主義の回復、③個人の尊厳を擁護する政治の実現を目指す「市民のプラットフォーム」として発足し、これらを実行するために立憲野党と市民の共闘が進められてきた。しかし、2017年9月、安倍首相が「国難突破解散」を行った直後、希望の党と民進党の合流問題がおり、市民と立憲野党の共闘に困難が生じ、残念ながら、一步後退した。

しかし、これを契機に青森でも2017年10月8日「市民連合あおもり」が結成された。また、2015年6月の県知事選挙の推進母体として「進め！ドクター大竹の会」が市民目線の政治改革を訴える市民運動を展開していた。

青森県地域・自治体問題 研究所

〒030-0944

青森市大字筒井字ハツ橋1293-49

tel 090-2276-0477 fax 017-764-3213

URL <http://jichiken.kenrouren.jp/>

emai aomorijichiken@kenrouren.jp

「大竹の会」はその後、「会の解散・発展的解消」を決め、県内での「安保法制の廃止と立憲主義の回復、改憲反対、原発ゼロ」を求める市民運動の継続のために、「市民連合あおもり」への合流方針をとった。そして、2018年7月にキックオフ集会、9月に、永田浩三武蔵大学の講演会を開催した。

これ以後、運動の重点は2019年7月予定の参議院選挙において野党統一候補の実現と県知事選への取り組みが続けられた。本シリーズの第3回において今年3月24日開催の「三村県政を検証する『政策フォーラム』」を案内したが、現三村県政の5期目の挑戦に対しては参加者から「県政停滞」の実態に多くの批判が語られた。

こうした中で今回、市民派として無所属の佐原若子さん（歯科医師）が立候補した。佐原さんは、次の主張をしている。立候補にあたっての基本姿勢は「県民の命を守る！新しい未来への挑戦！」「女性が輝く政治、弱い者に寄り添う心温かい知事！」「国にはノーも言い、「長いものにまかれる」政治にさようなら！」、知事選挙の3つの争点として、「国内最低ランクの長期停滞県政から、『子育て安心、老後も安心』の県政へ」「原発・核燃推進の県政から、市民連合あおもり原発ゼロをめざし安全に責任を持つ県政へ」「国いいなりの県政から脱却し、地方自治の本旨に基づく県政へ」である。この他20の「重点政策」を掲げている。わが自治研会員も佐原候補の政策づくりに個人的に関わっている方もいる。本自治研としては、憲法に基づく「地方自治の本旨」を重視し、国いいなりの県政から脱却を掲げる佐原候補の基本姿勢は支持・応援できる。以上

「被災3県、
自省と巡礼の旅」
(2018年5月15日
~26日)
奥村 榮



【第4回】「心を彫り込む」清泰寺を
経由して、女川へ

5月18日、仙台へ向かう県道10号線を北上、道路脇に3.11大震災水位3mの表示。10号線のすぐ右側海よりに5~8mぐらいの道路のかさ上げ工事が延々と続く、朝から強い雨が降り続く、雨の中の歩行はきつい。仙台市内に入ると、鉄骨だけでできた3階建ての避難所が所々にある。6時半ようやく宿にたどり着く。

5月19日、松島へ向かう国道45号線、歩道がない所が続く、大型トラックが行き交う中での歩行は非常に危険だ。松島海岸に3mぐらいの防潮堤が続く、海が全く見えない。津波に襲われた地域で、高い防潮堤を低くしろと住民が要求、「これでは津波が来たかどうか分からず、逃げられない!」という。その通りだ。

松島の宿は値段が高いのと、距離も稼ぎたいので、海に突き出た奥松島がある宮戸島に向かう。奥松島の漁師民宿に泊まる。主人が漁師で、採ってきた魚がお膳に次々と出る。本当に旨いが食べきれない、残しては申し訳ないというやうやく食べきる。ご飯など食べる余地もない。高級魚まつかわカレー(30cm)一匹が丸ごと唐揚げで出されたのには驚かされた。民宿には3種類あることが、この旅で初めて分かった。観光地やその周辺にあり、地元で取れた魚などを出し観光客相手に専門やっている民宿。都市部にあり、労働者が安く連泊でき、料理もトンカツなど働く者の腹を満たす民宿。そして漁師などが漁のかたわら兼業でやっている民宿。この3番目の良心的な民宿に泊まったら、部屋や風呂は立派でなくても、旨い魚を安く、腹一杯食べられる「最高の民宿」に出会うことができることが分かった。この旅で出会った2軒の漁師民宿は、生涯最高の「魚宿」となるであろう。

5月20日、塩釜を通り女川に向かう。ただし、海岸沿いではなく、内陸側に大きく舵を切って、距離はかかるが、東松島市大塩にある清泰寺へと向かった。4月15日の朝6時すぎNHKを見てみると、「目撃!につぼん

『“心”を彫りこむ~震災7年
亡き人とともに』」

という番組が放映されていた。冒頭「あの日から7年、今年も東日本大震災で亡くなった人々を供養する法要が開かれた。集まった人々が心待ちにしているのがお寺の住職が彫った木の仏像。大切な家族を亡くした45人に送られた。宮城県・東松島市では死者・行方不明者が1155人にのぼった。津波で家族4人を亡くした男性は、震災の翌年に贈られた仏像を心の支えにして生きてきた。今年やっと仏像を手にした女性は、亡き夫を迎えたような喜びに包まれた。仏像と共に7年目の春を迎えようとする人々を見つめる。」と流れた。住職の小池康裕さん(75歳)が被災者のために彫る仏像は1000体を超えるという。住職になってから檀家を励まそうと、古い本堂の木材などで仏像をつくり渡してきた仏像が600体を超えた頃、東日本大震災に襲われた。「犠牲者の存在を身近に感じ続けることが心の復興につながる」という。映像に冬の夜、暖房もつけないで仏像を彫り続ける姿が映し出された。その指は彫り続けてきたため、大きく曲がり変形していた。

仏教の本質は、「上求菩提 下化衆生」

(じょうぐぼだい げけしゅじょう)「上にむかつては理想を實踐し、下にむかつては衆生の幸福を導く」ことだとされる。そしてそれに励む者を「菩薩」という。まさに、小池和尚は菩薩である。「この人に会いたい」というおもいで清泰寺を目指した。寺の前には「父母がかたみとなさんわがいのち この世のなかにあらんかざりは」良寛 という詩が掲げられ、境内の中には「東日本大震災犠牲者供養之塔」が立てられていた。小池和尚にぜひお会いしたい気持ちもあったが、お忙しい中、時間を取らせてはと思い、供養塔に手を合わせ、一礼して女川に向かった。

女川に向かう398号線は歩道がない所が多い。暗くなってヘッドライトを付けた。街路灯も少なく、ヘッドライトなしには歩けない。午前8時半に出発して、もはや10時間、疲れがピークに達して来たが目的地女川はまだまだ遠い、さすがに疲れ果て、道路沿いに走る岩手に向かう電車に乗ったら…という迷いも出てくる。暗い海岸線の道路、向こうに明かりが見える。ようやく女川かと思ったが、着いてみればまだ手前の街、これまで一度も転倒したことが無かったが、歩道の縁石に足を取られ転倒する。もう限界である。途中で宿に電話をして遅れることを伝えるが、伝えた到着時刻にはまだまだ手前の地点、二度・三度と電話をする。到着したのが午後9時半、歩いている時間だけで12時間、50kmを歩き切った。食事をする力がない、宿で缶ビールロング缶2本を買い、1本目を半分飲んだだけで、着替えもせずにベットに倒れ込んで朝を迎えた。(続く)

三村県政4期18年を「県財政」から考える

理事・青森県労連議長 奥村 榮

3月24日、市民連合あおもりが主催して「三村県政を検証するフォーラム」が青森市民ホールで開催された。県財政から見た4期16年について、報告したものの結論部分について報告する。

1、三村知事による財政削減結果は

	1994年北村県政	2002年木村県政	2016年三村県政	2002年－2016年
基金残高（貯金）	1804億円	903億円	317億円	－586億円
県債残高（借金）	5870億円	1兆2200億円	1兆1752億円	－448億円

2003年に三村氏が木村県政を引き継ぎ、財政破綻寸前の県財政の財政再建団体転落を防いだことは事実である。

では、北村県政から三村県政への県財政を県の貯金である基金残高と借金である県債残高の推移で見ると、上のように木村県政は北村県政時代の貯金（基金残高）を半減させ、借金（県債残高）を倍増させた。青森県財政にとっては負の遺産として記されるべきものとなった。

では、木村県政から引き継いだ三村県政はどのようなものであろう。

木村県政の最後の2002年度と三村県政の知りうる直近のデータがある2016年度で比較すると、貯金（基金残高）でマイナス586億円、借金（県債残高）でマイナス448億円、つまり貯金を586億円減らしたが借金も448億円減らした。その結果、138億円の県財政の赤字を増やしたことになる。繰り返しになるが、財政破綻を阻止したことは間違いないが、県財政を改善させたかのような評価があるが、事実上、138億円の赤字を増加させたのが三村県政の実態なのである。

この数字を県民一人あたりで考えると、どのようになるだろうか？

1994年度 北村県政	1年間借金（県債）1230億円	1年間返済額（公債費）1161億円
2002年度 木村県政	1年間借金（県債）1523億円	1年間返済額（公債費）1195億円
2016年度 三村県政	1年間借金（県債）662億円	1年間返済額（公債費）1216億円
1994年度 北村県政	借金総額（県債残高）5870億円	貯金総額（基金残高）1804億円
2002年度 木村県政	借金総額（県債残高）1兆2200億円	貯金総額（基金残高）903億円
2016年度 三村県政	借金総額（県債残高）1兆1752億円	貯金総額（基金残高）317億円

その年の青森県の人口は、それぞれ1994年（148万人）、2002年（147万人）、2016年（129万人）である。その人口で上記の金額を割り戻すと次のようになる。

	1994年北村県政	2002年木村県政	2016年三村県政
県民一人あたりの借入金（1年間）	8万3100円	10万3600円	5万1300円
県民一人あたりの返済額（1年間）	7万8400円	8万1300円	9万4300円
県民一人あたりの借金総額（県債残高）	39万6600円	83万円	91万1000円
県民一人あたりの貯金総額（基金残高）	12万1900円	6万1400円	2万4600円

前述したように、三村県政は木村県政の財政危機状況を脱して、正常化に向かいつつあるという評価は、事実ではない。県の財政赤字を138億円増加させ、県の主人公である県民一人ひとりあたりの借金を8万円増額させ、貯金を約4万円減額させたのである。これが、県のデータから見た財政における三村県政の真の姿ではないだろうか。

2 憲法第8章「地方自治」

もう一度、憲法に立ち戻り第8章地方自治の基本条文第92条の「地方自治の本旨」に立ち返って考える必要があるのではないだろうか。それは中央集権的な戦前の天皇制国家から、国民が主権者であり、国民の人権を守ることを、国家の最大の責務とした。だが、国民生活は都道府県、市町村で営まれている。したがって、地方自治体で国民主権と人権の保障が実現しなければ、それは絵に描いた餅である。

「地方自治の本旨」は、国からの独立性を自治体に保障する「団体自治」と、自治体住民が自治体をつくり支えていくという「住民自治」によって保障されている。その真の実現は、「行政自治権」「財政自治権」「住民参加」の3本柱によって支えられている。三村県政は、これらの根本的な柱を保障しているであろうか？

これまでの県財政に関する分析をぜひ検証して頂きたいと願っている。

* いよいよ6月2日は、青森県知事選の投票日です。

市民連合青森の呼びかけに答えて

佐原若子さんが手を挙げて下さり、連日奮闘しています。

その模様は、下記のアドレスでご覧になれます。

<https://wakako-yes.com/>

直近の選挙カーの動きも掲載されていますので、是非お近くにお住まいの方は駆け付けていただき、一緒に県政を刷新する意思を表明しましょう。

基本政策

- 県民の命を守る！ 新しい未来への挑戦！
- 女性が輝く政治、「困っている人」に寄り添う心温かい知事！
- 国にはノーも言い、「長いものにまかれる」政治にさようなら
- 知事選挙の3つの争点
- 国内最低ランクの長期停滞県政から、「子育て安心、老後も安心」の県政へ
- 原発・核燃推進の県政から、原発ゼロをめざし安全に責任を持つ県政へ
- 国いいなりの県政から脱却し、地方自治の本旨に基づく県政へ

※今後の予定

2019年度 第19回総会

2019.7.27(土) 13:30~

総会に先立って、階上町議の寅谷氏に大いに語ってもらいます。



当研究所の理事である、寅谷正さんが階上町町議に当選されました。
《本人のコメントを借用して紹介したいと思います》

4年前の階上町議会議員選挙での最高得票数が長根岩夫さんの「788票」であったので「800票」に目標を設定し、「805票」まで「票読み」していた。ところが蓋を開けたら、「345票」であった。所謂、「6掛け」減であったいかに、激しい「戦い」であったかが推察できた。大変、勉強になりました。応援してくれた階上町民をはじめとする皆様、有り難うございました。ご期待を裏切らないよう愚直に頑張ります。